

短歌・俳句で綴る

御代田の四季

「短歌の会」と「御代田風の道俳句会」から寄せられた代表作品です。

短歌

カーテンの裾をゆらして吹く風は淡きみどりの香りもちくる

吉田 倉子

凜として最後の華を咲かせせるシチズン通り桜並木は

前田 悦子

農機具を洗ひて出来し水溜りに燕は早も舞ひおりて来つ

土屋 昭子

俳句

当期雑詠

新樹雨裸婦像みずら雫して

大高 霧海

牛の鳴く裾野明けゆく麦の秋

石田 彰男

見はるかす霞の向かう彼の屋島

小林阿ぐり

黒い瞳のサッカー少女夏兆す

清水 慶子

元号の橋の名幾つ鮎の川

内堀 隆久

サークル さあ来る。 34

ボランティア
グループ編

手作り弁当で頑張ってます！ 配食の会 さくら

- ①自分にあった身のまわりのことから始める
- ②相手のニーズに合わせて
- ③細く、長く、無理をしない
- ④約束を守る
- ⑤秘密を守る
- ⑥謙虚さを忘れずに
- ⑦家族の理解と協力を得る

これは平成19年4月、会員10名で発足した「配食の会 さくら」のモットーです。

結成当初は月に一度、第二火曜日に一人暮らしの高齢者を中心に配食サービスを始めました。会員は全員主婦で、配食の料理はすべて手作り料理です。平成20年には会員が17名に増え、2班に別れ、月2回の配食サービスを行っています。

これからも利用者からの希望、要望を伺いながら、おいしいお弁当作りを目指して頑張ってまいります。



Man Watching #121

私が82のマナーアドバイザーです！

- ① 趣味は？
プリザーブドフラワー・パン作り
- ② おすすめスポットは？
当店ロビーから見る雄大な浅間山
- ③ 理想の人は？
明るく元気あふれる人
- ④ 夢・目標は？
お客さまおひとりおひとりの出会いを大切に、地域の皆さまから信頼されるマナーアドバイザーになること
- ⑤ まちづくりに一言
二人の子の母として子どもたちが安心してのびのびと育つ町づくりを



Let's try English!

Message FROM
Paul Wellington Harris
(中学校AET)
Vol.140



Southern Hospitality lives on in Nagano

I lived in the south part of the U.S.A. when I was a child. Everyone was very friendly in the south. My grandparents were a good example. Sometimes in the evening a stranger would drop by the house and say, "I'm sorry my car broke down. May I come in and use the phone?" My grandfather would reply, "Sure, how far down are you? Let me take a look." In the U.S. we call this friendliness, "Southern Hospitality".

But last winter I was talking to my aunt who lives in Memphis, Tennessee and she said, 'Southern hospitality is a thing of the past nowadays. A woman moved in down the street last year so we got together to bring her cake and vegetables. But the woman told us to get away from there and not to disturb her anymore!' I was so surprised to hear that.

I think Southern Hospitality still lives on in me and in Nagano. When I moved to Miyota I brought my neighbor some drinks one evening, "Hi, I'm Paul from next door..." I said. He immediately invited me into his home. A few weeks later we had a softball tournament. After, I got home I heard my doorbell. It was my neighbor. He invited me to eat and drink with the other neighbors. It was very fun and I felt at home. Everyone one was so kind. In my heart I knew Southern Hospitality still lives on in Miyota.



長野での南部流のおもてなし

子どものころに合衆国の南部地方に住んでいたことがあります。南部地方では誰もが親しみやすかったです。僕の祖父母が良い例でした。時々、夜知らない人が「すみませんが、車が故障してしまって。電話をお借りできますか？」なんて訪ねてくると「どうぞどうぞ。どこまでお帰りになるんだい？車の調子を見よう」なんて祖父は答えていました。合衆国ではこんな気安さを「南部地方のおもてなし」と呼んでいます。

しかし、昨年冬、テネシー州のメンフィスに住む叔母と話したとき、彼女は「今では南部流のおもてなしなんて過去の話になっちゃったよ。去年ある女性が通り沿いに引っ越してきたから、みんなでケーキや野菜を持っていったのよ。そしたらその女性は帰ってくれて私たちに言ったのよ。もう二度と彼女の生活の邪魔をするなですって！」僕はそんな話を聞いてびっくりしました。

僕は長野で南部流のおもてなしで生きています。御代田に越してきて間もないある夜、僕は飲み物を持って近くの家に行き「こんばんは。近くに越してきたポールです」と言ったとたん、彼は僕を家に招き入れてくれました。それから数週間後、ソフトボールのトーナメントがありました。その後家にもどっていると誰かがベルを鳴らしました。でてみると、ご近所の方が外でみんなで飲んでるところへ僕を誘ってくれたのでした。すごく楽しかったし、家にいるような気になりました。皆さんとても親切です。僕は心の中で、南部流のおもてなしは御代田にも生きています。